

新春講演会 2024 の開催報告

情報システム学会の新春講演会 2024 が、2024 年 1 月 27 日（土）14:00-18:00（講演会と名刺交換会）に学士会館 302 号室で開催されました。講演のテーマは「デジタル時代におけるアート思考」で、講師は岡村暢一郎氏（京都芸術大学芸術教養センター・知的財産センター准教授・知的財産センター所長）でした。

講演では、法社会学の概念から始まり、インターネット社会における法律とコードの関係、アーキテクチャの概念、インターネット社会と法律の関連、WEB3 の分散化、行動経済学、バイアス、デザイン思考とアート思考、そして AI の可能性と課題などについて幅広い議論が行われました。

32 名が講演会に参加し、活発な意見交換が行われました。また、講演終了後には 25 名が立食形式の名刺交換会に参加し、さらなる交流が行われました。

講演会では、デジタル時代における様々な課題や可能性が提示され、情報システムの未来やデザイン思考・アート思考、AI 社会の到来について深く考える貴重な機会となりました。今後も情報システム学会は、社会の変化に即した議論の場を提供していきます。

アンケート回答は 11 件（一般会員と賛助会員）

大変満足 = 72.7%、満足 27.3%

「法律の捉え方について、大変大きな学びを頂きました。」「視野が広く、実務に基づいた提案が随所にあり、大変参考になった。」「講演者のお話は現在の社会に取り価値がある内容でした。」など、好評のコメントを多数いただきました。

懇親会に参加された方からは、対面での懇親会（立食・自由交流形式、会費制）に好評をいただきました。

また、今後のテーマ設定については、生成 AI の社会実装や、AI と情報社会の展望について聞いてみたいとの意見をいただきました。